

会 議 録

会 議 名	嵐山町介護保険運営協議会					
開 催 日 時	令和2年11月25日（金）	開 会	午後2時00分			
		閉 会	午後2時45分			
開 催 場 所	嵐山町町役場 町民ホール					
会 議 次 第	1. 開 会 2. あいさつ 3. 会議録署名人の選任について 4. 議 事 （1）第8期高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定について （2）その他 5. 閉 会					
公開・非公開の別	公 開		傍聴者数	0 人		
非公開の理由 （非公開の場合）						
委員出欠状況	会 長	吉田 典生	出	委 員	小屋野 賀津美	出
	副会長	安藤 勲	出			
	委 員	中澤 和英	出			
	委 員	山下 道子	出			
	委 員	中西 敏雄	出			
	委 員	杉田 文子	出			
	委 員	石井 彰	出			
	委 員	大木 伸秀	出			
	委 員	山田 昇	出	出席者10人 欠席者0人		
事 務 局	長寿生きがい課長 萩原 政則			長寿生きがい担当 菅原 広子		
	包括支援担当 簾藤 久史			(株)サーベイリサーチセンター 岡田		

次 第	顛 末
1.開 会	萩原課長
2.あいさつ	会長
3.会議録署名人の選任について	中西委員、杉田委員にお願いする。
4.議 事	<p>事務局>進行は吉田会長にお願いする。</p> <p>(1) 第8期高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定について</p> <p>事務局>嵐山町高齢者福祉計画介護保険事業計画（骨子案）に基づき説明本日については第1部の総論について審議をお願いするところである。国の基本指針に基づいて文言の修正等変更箇所について説明。</p> <p>会長> ご意見などあるか。</p> <p>委員> 9ページ、「認知症高齢者数の推移」のところでは人数が出ているが、これは全てが在宅の方なのか。施設の方は含まれているのか。</p> <p>事務局>こちらについては在宅の方も施設の方も一緒に含まれている。</p> <p>委員>22ページ、「介護保険の現状」について、総給付費のうち施設サービス費に限って計画値より実績値のほうが上回っている話があったが、この数字から見ると、やはり施設サービスを利用する利用者が増えていると見て良いか。</p> <p>事務局>特別養護老人ホームや介護老人保健施設の利用者がかなり増えている。</p> <p>委員>そうすると、令和元年までの数字より、今後も施設サービス利用者が増えるにあたって、施設サービスの空き状況は現状どのようになっているか。入りたくても入れない人がいるのか。現状を教えてください。</p> <p>事務局>確かに入りたくても入れない人がいる。今現在の入所待ちはわからないが4月1日時点で25人いた。</p> <p>委員>これからどんどん高齢化して、テレビコマーシャルなどでも子どもたちに迷惑をかけたくないからということで、在宅介護ではなくそういう施設に入る方がどんどん増えてくる。私自身も対象だが、それに対して、施設等の増加とか、そういうのは、特養の他に個人的に増やしてくださった方のところへ待機していつか入るといことだろう。嵐山町の特養は今2箇所ぐらいか。そうすると、もちろん前から聞いているが、特養は入れないということで、後は在宅介護か民間がということになる。本当に年をとるといのは怖いことだ。</p> <p>事務局>嵐山町の医療圏は、川越比企圏というエリアに属している。県の施設整備計画では、この川越比地内で有料老人ホームの整備を進めており、嵐山町の川島地内に整備予定である。同じように、特養等、県が指定するものについてもエリアごとに整備計画がある。</p> <p>町の許可となるのがグループホーム等で、町が必要とすればこの計画の中に、盛り込む必要がある。第7期の計画では、小規模多機能型居宅介護施設を1つ増やしたいという計画だったが、3年間のうちに増やすことができなかったもので、8期もまたその辺りは盛り込むようになると思う。</p> <p>委員>よくわからないのだが、26・27ページの関係で、令和22年に高齢者率が上がって人口がだいぶ減る。それなのに要支援・要介護の認定者が増え</p>

るのはどうということか。

事務局>この表は、厚生労働省が運営している「見える化システム」という情報システムで、このシステムで分析された将来推計をそのまま使っている。まず考えられるのが2025年問題で、団塊の世代が75歳以上になるのが今から5年後、人口でいうとそこだけ多い。もちろん75歳で介護認定を受ける方もいるかと思うが、そこから10年経って85歳になったときのほうが認定を受ける方が多いかと思う。委員がいわれたように、10年後や15年後であれば、団塊の世代の方が一生を終える間近というところ、そのところで山が大きくなるのは理解できる、しかし2022年は20年後なので、厚生労働省のシステム上で出ている数字がどういうプログラムで組んでいるのかわからないが、伸びるとするのは、団塊の世代の方が一番介護を多く使うところで人数が多くなるのかなと。全世代で同じ人数であればそのようなことは起きないが、山があるので、山があるとところが介護が多くなるか考える。委員>理解できない。

事務局>25ページのほうを見ていただくと、令和22年のところの後期高齢者人口が3,163人になっていて、75~79歳は935人、80~84歳は863人、85~89歳が726人で令和7年より少し多くなっていて、90歳以上も令和7年は325人、令和22年は639人なので、令和22年になると90歳以上の人口がだいぶ増えてくる。そういうのも関係しているのではないかと考えられる。今言ったように、22年は団塊の世代が90歳以上になるので、25ページ、22年の90歳以上が639人、その方は、たぶん実質的に介護になる方が多いので、27ページのような22年度のグラフになるのではないかと考える。

委員>勉強不足なもので伺いたいですが、25ページ、「コーホート変化率法による」と出ていて、コーホートとは年齢階級のこと、この年齢階級の過去における実績、実績人口の動向から変化率を求める、という説明があるが、26ページで令和22年のところを見ると、全体に減ってはいるが、この間15年もあるから急に減ったわけではないと思う。しかし生産年齢人口がかなり減って高齢者を支えていただけの人口が少なくなって寂しいなという気がした。他のところよりもここの生産年齢人口が減っているのはちょっと気になったが、このコーホート変化率というのは、あくまでも実績に基づいた集計だと思うのだが、それ以外に増減を左右する要素というのは、単純に実績だけであって、理屈から推した何か要素というのはないものか。あくまで実績だから中身はわからないということなのか。

例えば、出生率は減る方向にあり、それがその要素の1つであるとか。

これは本来の計画の内容と別で、私の勉強不足だと思うので、また改めて私自身勉強してみる。

事務局>「見える化」システムで高齢者人口の表があるが、その中で嵐山町の現状の数値に全国平均とか伸び率が入っている。その中の1つの方法としてコーホート法がある。基本的には、例えば21歳から24歳の人が5年後は5歳ずつ上がる、単純に考えればそうなのだが、その中に出生率とかいろいろな要素、今までの経験上の過去の数字を合わせて分析した数字の係数がそこに入っていて、そのため減ったり増えたりというのが見られる。基本的にはだんだん増えて、減ってというのが常識だが、例えば、医療が発達して健康になるとか、そういうのが含まれているので、先ほどいった要介護が増えるというのは、健康寿命が増えるとかいうのも含まれた計算内容で、そういうのが入っているのを見た目はこんなかたちになっているが、過去の実績や

今後の推計の数値を入れたもので計算されているというかたちである。

委員>今生まれた子が22年にはちょうど20歳で働くようになる。そういう方たちが推移されているわけだ。

事務局>ただ、今、子どもが生まれる数が少ないとかいうのがあるので、生産人口はだんだん下がっていくというかたちである。嵐山町に限ったことではない。

委員>そうすると、私はもう働かなくていい年齢なので、こんなことを言うと怒られるが、もっと底辺を残してもらって他に働いてもらわないと。1つの方法として。これは現実的に支える人が今のままだとこれだけになってしまって、支えられる人の方が多くなるというスタンスだ。

会長>他にはいかがか。

委員>今日のこの内容は骨子案ということで、具体的な施策については今後のことになるかと思うが、今、コロナ禍において、前回、各施設のほうで感染症などの対応についていろいろな努力をされている内容について、もう少し広く発信されたらいかがかという話をさせていただいた。これから具体的な計画案を策定するにあたって、コロナだけではないが、コロナ対策を伴った計画という具体的な文言なり、そういった計画であることを入れることについてはいかがか。

事務局> 現在この計画の中にはコロナ対策とか、そういった言葉が入っていないが、国のほうの指針としては、災害や感染症対策に係る体制整備があるので、コロナ対策という言葉は入れずに、感染症対策ということで今後進めていく予定になる。

会長>なかなかコロナのことは不透明な部分もあるし、たぶんこの計画の中に具体的に入れていくというのは非常に難しいと思う。算定できないものもあるだろうし、この中で、結局、個人の負担の金額なども決めていくわけで、そこに今の段階で具体的に入れていくのはかなり難しいかと思う。ただ、方針としては、当然、感染症だとか今回こういうことがあるわけだが、また別のことが起こりうる可能性もあるし、これを良い教訓にというか、入れていったらいいのではないかと思う。今の段階で具体的にというのは難しい。今後どう変化していくかはまだ先行き不透明なところが多い。ただ、ワクチンなどいろいろなことを含めて進んできてはいるわけなので、この会議を進めていく上で、今年度中にまた新たな方向性が見えてくる可能性ももちろんあるわけで、その辺も含めてよろしくお願ひしたい。

他にはいかがか。

委員>これとは関係ないが、例えばこれから、今、高齢者同士2人で住んでいる方が、令和22年辺りになって1人お亡くなりになって一人暮らしになるお家が、たぶんだんだん増えてくるのではないかと思う。例えばそういうときに、近所にも話す相手がいないし、家族も話す相手がいない、けれど一応認知症はなく自分のことは何でもできるが、このまま1人で暮らしていると認知症が入ってきたりすることが心配だという方が中にはいらっしゃる。例えば、デイサービス等は介護度が入っていないと通所などはできない。そういう一人暮らしの方が増えたり、これからそのままいくと認知症になってしまうのではないかという予備軍がたくさんいらっしゃると思うが、そういう方に関して何か対策のようなものはあるか。近くで、やはり一人暮らしになってしまい「今は大丈夫だけれど、ちょっと話し相手もいないので、通所を希望したいけれど介護度がないとだめですよ。」みたいな話を聞くこと

	<p>がある。その点についてどのような対処があるか。</p> <p>事務局>今、空き家を利用した事業を社協といっしょに町で始めていて、今年になって家を1軒確保した。居場所づくりということで、心ある方に世話人になっていただき、これから具体的に週何回開くとか、何をやるか等を決めていくが、川島町と寄居町では、健康麻雀や親子パソコン教室を開いたりしている。先生もお年寄りで、自分が会社等や活動で得たことを皆さんに教えたり、囲碁や将棋をしたりしている。そこを開所して100円や200円の参加費、維持費を負担いただき、そこに行けば誰か話し相手がいる、囲碁や将棋など頭を使うこともできるというような活動を始めているところだ。場所は志賀の郵便局の近くで、とりあえず、まず市街地から歩けるような範囲でやってみたいということで動き出しているの、そういった活動が軌道に乗ってくれば、2か所目、3か所目ということができるといいと考えている。</p> <p>会長>他にいかがか。大体よろしいか。</p> <p>今日のところは総論ということでいろいろご意見をいただいた。(1)についてはご承認いただいたものとさせていただきます。</p> <p>(異議なし)</p> <p>(2) その他</p> <p>事務局>次の会議の予定は1月13日水曜日を予定している。内容については、今回、総論をやらせていただいたので、第2部の各論を協議していただくこととなる。</p> <p>会長>委員の皆さんから他に何かあるか。</p> <p>(特になし)</p> <p>会長>それでは議事を終了させていただきます。</p>
5. 閉 会	<p>課長>慎重審議いただき感謝する。</p> <p>次回は1月13日ということで、各論の部分に入る。メインは令和3年度、4年度、5年度の3か年の介護保険料についてである。事前に資料を送りますのでご審議よろしく願います。</p>
<p>上記会議の顛末を記載した内容について、相違ないことを証します。</p> <p>令和 3年 1月13日 署名委員 <u>中西 敏雄</u></p> <p>令和 3年 1月13日 署名委員 <u>杉田 文子</u></p>	